

埼玉県立大学地域包括ケア推進セミナー

妊娠出産子育て時代をサポート する包括的支援について

東京の近郊都市、埼玉県和光市子育て支援の現場から

NPO法人わこう子育てネットワーク

NPO法人ホームスタート・ジャパン

代表理事 森田圭子

地域和光市の場所・人口



交通の便良い池袋から12分、地下鉄乗り入れ
東京都隣接

人口約84000人 生産年齢人口約68%

平均年齢41歳 世帯数2名

出生数約790人

面積11km²

転出・転入 人口の約1割

人口増加傾向

ひとりの子育てからみんなの子育てへ

2000年にわこう子育てネットワーク活動開始

子ども。親。私たち当事者の視点での子育て支援の展開開始

同じ悩みを持つ仲間や先輩、知識情報、など

←共感、つながる場、いろいろな地域の人のお支え

人がつながる子育てしやすいまち

「大人も子どもも心豊かに暮らせる

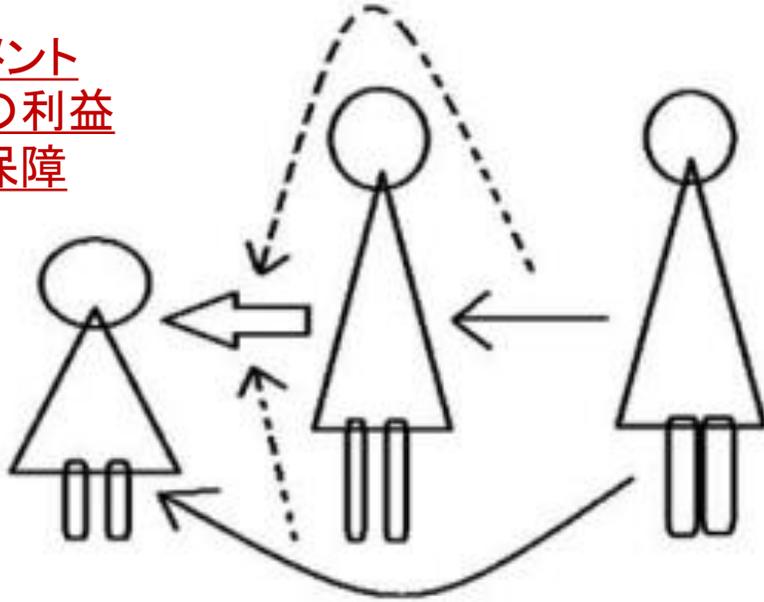
まちづくり」

転入転出の多い地域の中で

孤立とは何か、何が問題か

課題の深刻化を防ぐ子育て支援
(児童虐待；家族崩壊はけして他人事ではない)

いい親でありたい
いい子育てをしたい
三
親のエンパワメント
子どもの最善の利益
子どもの権利保障



乳幼児期の心の発達には、愛着の形成が大前提です。愛着の形成は、子どもの人間に対する基本的信頼感をはぐくみ、その後の心の発達、人間関係に大きく影響します。乳幼児期に愛着に基づいた人間関係が存在することが、その後の子どもの社会性の発達には重要な役割を持ちます。愛着とは、子どもが特定の他者に対して持つ情愛的な絆のことです(ボウルビィ)。

乳幼児期から家族が地域とつながり孤立しない子育てを目指す

ファミリーリソースセンター(カナダ)

親の子育てそのものが子どもの一生の出発点であるという考え

子どもを保護するものを保護せよ

ホームスタート(英国)

すべての子どもに幸せな人生のスタートを

子育ての孤立と育児ストレス

転居(転勤、避難生活、外国人)土地勘も頼りになる人もない

初めての育児の経験知識不足からくる不安

家族関係や友人関係のトラブルを抱えている

多子、年子、双子の育児ストレス・イライラ

育児と仕事で余裕・時間がない

親や子どもの体調やメンタルヘルスの不調(産後うつなど)、障がい

困窮、出かける手段がない、時間が合わない

対面コミュニケーションが苦手、地域の中の世代間ギャップ、格差のギャップ

外国籍、ダブルケアラー、ひとり親、高齢出産、若年出産、、、etc...

サポートの情報を知らない、知っていてもひとりでたどり着けない

時代の変化の中で、そもそも当てはまるサポートがない

子育て支援はエンパワメントから

子育ての当事者(親)の力を引き出す

傾聴

非審判的態度

誰かとつながる

信頼関係

サービスや情報提供

ピアサポート



子育てしやすい
社会を

家族の孤立を乳幼児期から防ぐための取り組み（H12～）

妊娠期からの仲間づくり、地域での出会いの場づくりの取り組み
子育て広場、プレーパーク、外国籍の親子、家庭訪問

活動の制度化と制度の変化

「政治を学びなさい、どんなふうに制度ができるのかを知りましょう」

地域課題解決のために自主事業として実績を積んで和光市で制度化してきた事業

子育てのインフラの隙間を埋めていく、

子育て者の居場所づくり 子育てサロン（2000） → 子育て広場事業委託（'04）

出てこられない当事者 家庭訪問型子育て支援ホームスタート（2008）→和光市ホームスタート事業（'14）

子どもの遊び体験の大切さ プレーパーク（2006） → 和光市プレーパーク事業（'16）

家族の多様性 外国籍家族の支援（2000） → 子育て通訳サポーター（'20）



子育て支援拠点で子育て仲間づくり
おやこ広場もくれんハウス



ホームスタート訪問型子育て支援

研修を受けた子育て経験者が サポートを受けながら定期的に乳幼児家庭を訪問し良き友人として傾聴と協働をするボランティア活動

ホームスタートとは

妊娠期から6歳以下の お子さんのいる家庭を、子育て経験のあるボランティアさんが何回か訪問しフレンドシップで支援する英国発祥の子育て支援です。話しを聴いたり「傾聴」一緒に外出や家事をしたり、子どもと遊んだりなど「協働」します。

コーディネートのもとで親子を支援するボランティアさんたちは、研修を受けた子育て経験者です。温かく寄り添って親子を支え、一緒の時間を過ごします。





プレーパークの活動～こどもの居場所づくり

わこようプレーパーク事業（自主事業和光市委託事業） R3年度年間 12回開催

外国籍の家族の子育て支援

子育て通訳サポーター



外国人おやこのあつまり



妊娠期からの切れ目ない 支援の必要性 わこう版ネウボラの中で

子育て世代包括支援センター（H26から）

ワンストップの支援、多様な支援と多職種連携、

～国の大きな動き

～母子保健、児童福祉の縦割りを超えて

ライフステージ別サービス一覧(わこう版ネウボラ事業・子ども・子育て支援事業)



和光市の
子育て世代
包括支援セ
ンターは
R6年以降に
大きく展開
予定の「こど
も家庭セン
ター」機能を
有している

①市区町村は、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもの包括的な相談支援等を行うこども家庭センター(※)の設置や、身近な子育て支援の場(保育所等)における相談機関の整備に努める。こども家庭センターは、支援を要する子どもや妊産婦等への支援計画(サポートプラン)を作成する。

※子ども家庭総合支援拠点と子育て世代包括支援センターを見直し。

母子保健ケアマネージャー（保健師、助産師） 子育て支援ケアマネージャー（社会福祉士、保育士）

- ・地域ごとの担当～母子手帳の交付の際の面談アセスメント（母子保健ケアマネの場合）
（支援者がいない、一人では難しい、など困難ケースのとき妊娠期から繋がる）
- ・病院等の専門機関、こんにちは赤ちゃん事業（委託）からの困難ケース紹介
- ・ホームスタートや、ひろばから、他のサービスからの紹介
- ・他部署・他機関との連携のコーディネートをしている
（社会援護課（障害、生活保護、生活困窮支援など）地域包括ケア課（児童虐待）
（各施設（スタンドアップ・暮らし仕事相談センターステップ）、病院、社協フードパントリー
民間の事業（学習支援、ホームヘルパー、民生委員（学校は包括ケア課が対応））
- ・利用者支援事業と地域子育て支援拠点事業の連携で、広場の場所と市役所におかれる

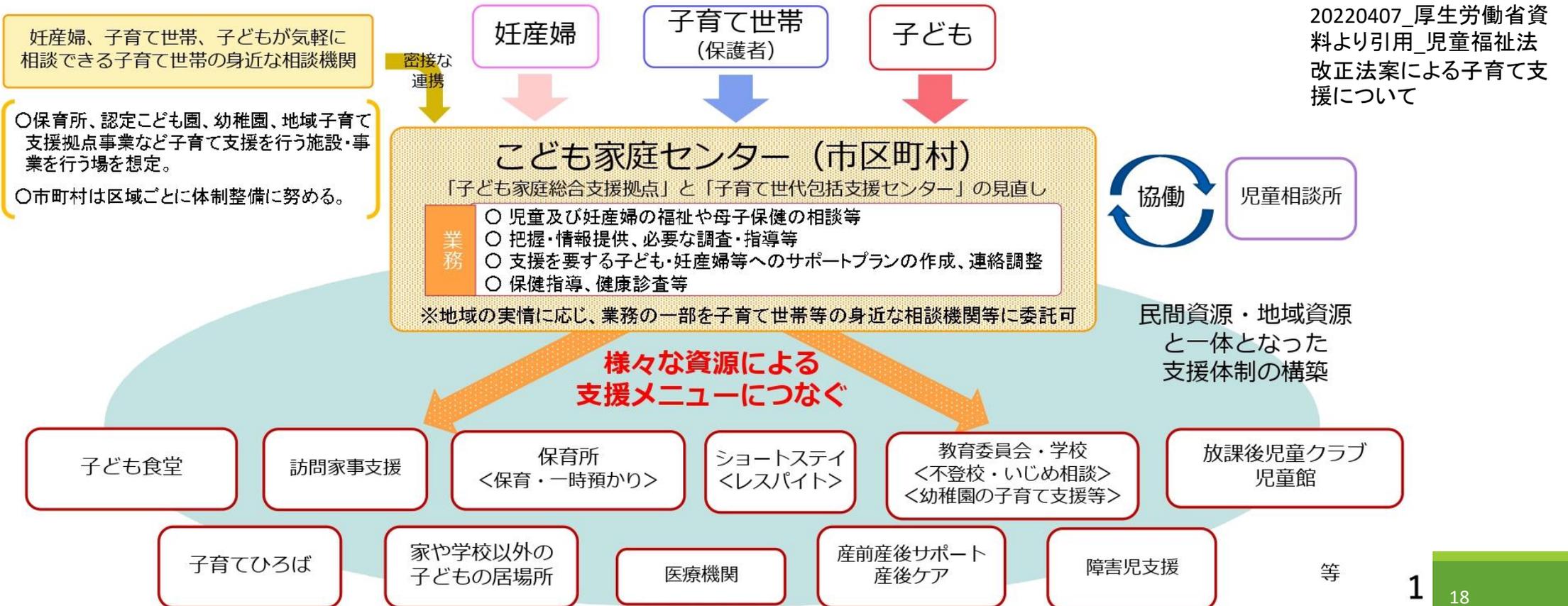
こども家庭センターの設置とサポートプランの作成

- 市区町村において、子ども家庭総合支援拠点（児童福祉）と子育て世代包括支援センター（母子保健）の設置の意義や機能は維持した上で組織を見直し、全ての妊産婦、子育て世帯、子どもへ一体的に相談支援を行う機能を有する機関（こども家庭センター）の設置に努めることとする。

※ 子ども家庭総合支援拠点：635自治体、716箇所、子育て世代包括支援センター：1,603自治体、2,451箇所（令和3年4月時点）

- この相談機関では、妊娠届から妊産婦支援、子育てや子どもに関する相談を受けて支援をつなぐためのマネジメント（サポートプランの作成）等を担う。

※ 児童及び妊産婦の福祉に関する把握・情報提供・相談等、支援を要する子ども・妊産婦等へのサポートプランの作成、母子保健の相談等を市区町村の行わなければならない業務として位置づけ



コロナ禍での孤立 現場の様子

仲間づくり、地域での出会い

～少子化・コロナ禍の時代により深刻に～

子どものウェルビーイングを目指して

「こどもまんなか社会」 とはなにか

今こそつながり 今こそ地域。

多様化の時代、私たちに何ができるのか、
コミュニケーションの変化 IT、SNS、オンラインの活用
私たちも変化していかななくてはならない今

NPO法人わこう子育てネットワーク



NPO法人ホームスタート・ジャパン

